

## 卒業式

本校第33期生が、三月一日(木)卒業しました。

前の晩、寒冷前線が沖縄島を通過し、沖縄のこの時期のセオリー通り当日は予想通り快晴でした。

第33回卒業式及び平成29年度卒業証書授与式が、09:50の卒業生入場から始まり、いつもと違う別人のような、緊張した面持ちの三年生が整然と保護者、在校生、職員の手拍子に合わせ入場しました。

用意した席は満席、立ち見の方がいらっしまったことは少々残念ですが、新しい体育館で初の卒業式となり、本校育友会(PTA)会長の山城進儀様を始めご来賓のご臨席を賜る厳粛な中で、234名の卒業を認定いたしました。

以下に私の式辞の一部を抜粋して紹介します。

— (これからの)変化の激しい不確実な時代を生き抜くためには、伝統や文化に立脚し、高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力も求められます。そのため、生きて働く知識・技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成、学んだことがらを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力や深い人間性等の涵養が重要となります。

その獲得のための — ヒントを皆さんに贈り、はなむけとしたいと思います。

— 「適度な失敗をすること」です。とは言っても、やみくもに失敗すれば良いのではありません。努力に努力を重ねて、さらに新しいことにチャレンジをして「失敗」し、「後悔」ではなく「反省」をして下さい。「反省」をする人は確実に失敗の原因を分析します。これがこの後の力となります。「後悔」する人は、自分には能力がないと諦めてしまって、挫折感・敗北感にひたります。この違いがその後の人生に大きな差となって表れてきます。

ここに在る皆さんには、誰にでも大きな可能性があります。能力も持っています。若さもあります。「後悔」する必要はどこにもないはずです。—

式典の部に続き、生徒会主催の二部は、在校生の歌「YELL」から1年間の思い出のアルバム、代表6名による感動的な在校生への卒業生メッセージ、そして卒業生の歌「奏(かなで)」、野球部の有志による応援メッセージは在校生を巻き込んでの壮大なパフォーマンスになりました。

式終了後の花道は、保護者、在校生たちが入り乱れての祝福ロードとなり、使用された紙吹雪が地面に、まるで雪のように積みかさなり、別れを惜しむ気持ち、感謝の気持ち、後を託す気持ちの繚乱さを象徴していました。

日程を終え、行事のプレッシャーから開放されると同時に、2年間つき合った生徒の、笑顔で校門を去る後ろ姿に、やはり「頑張れよ!!」という言葉しか浮かびませんでした。